
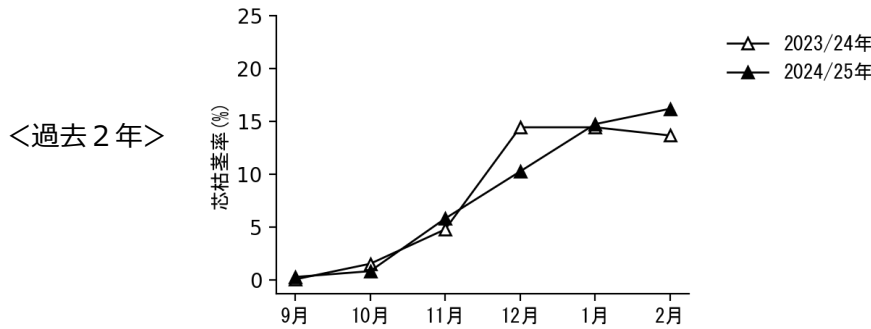
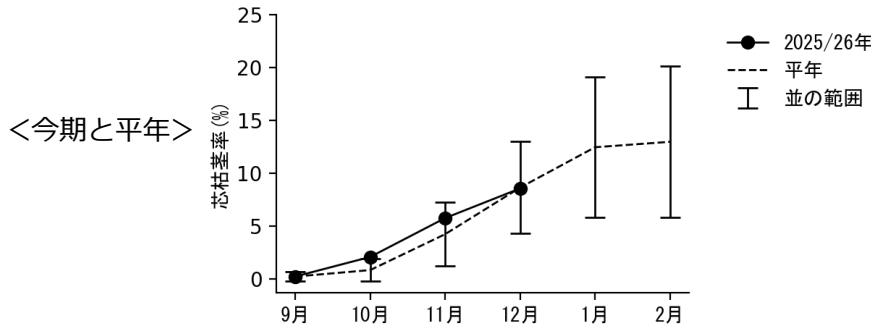


作物		さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）				
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並			
予 報	12 月からの増減傾向	↗			
	1 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）			

調査結果


芯枯茎率の推移（夏植え）



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ（83%）、イネヨトウ（17%）
- ・発生ほ場率100%（平年：93.5%）※一部ほ場で多発

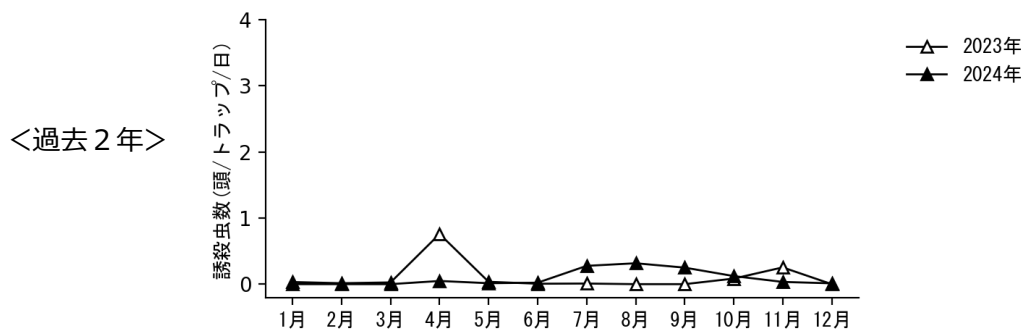
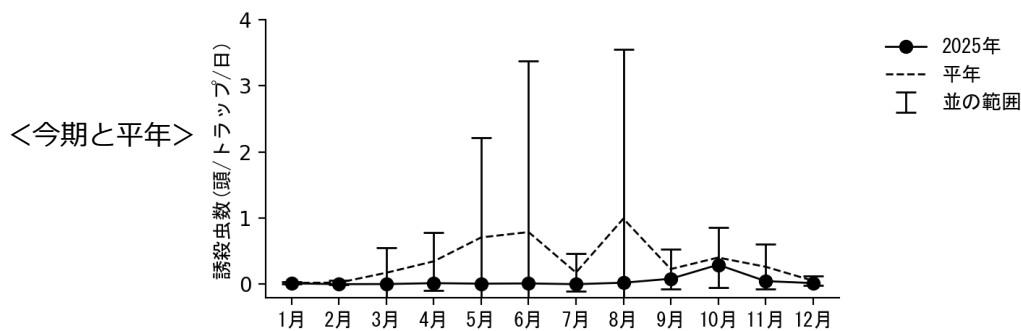
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予 報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率40.0%（平年：29.7%）

防除のポイント

- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・出蕾・開花期における本種の増加を抑制するため、ビニール被覆前後に予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

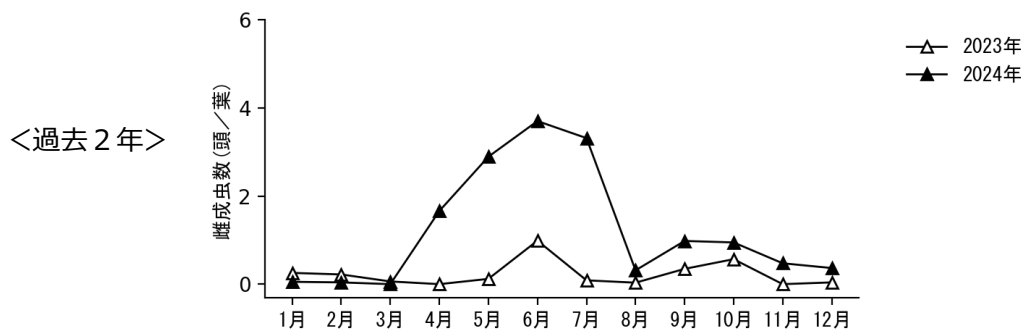
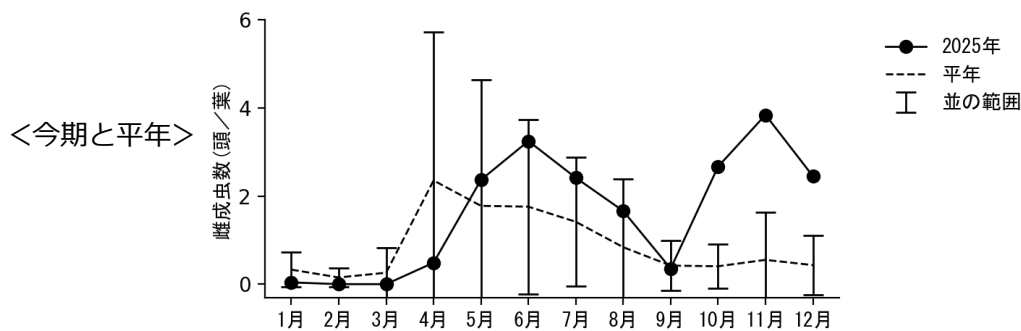


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

雌成虫数の推移




- ・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
- ・発生施設率75.0%（平年：33.9%）※一部施設で多発

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。

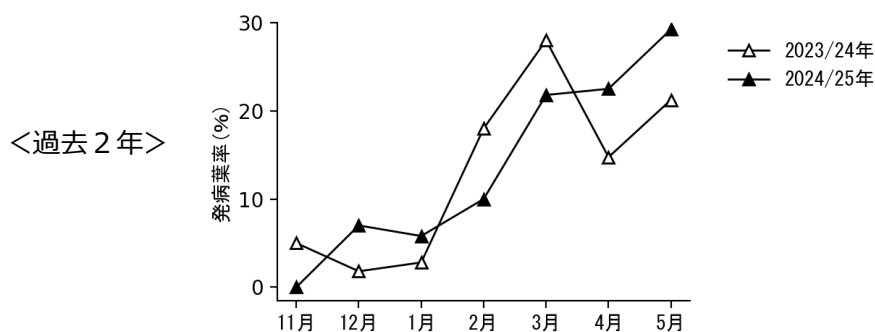
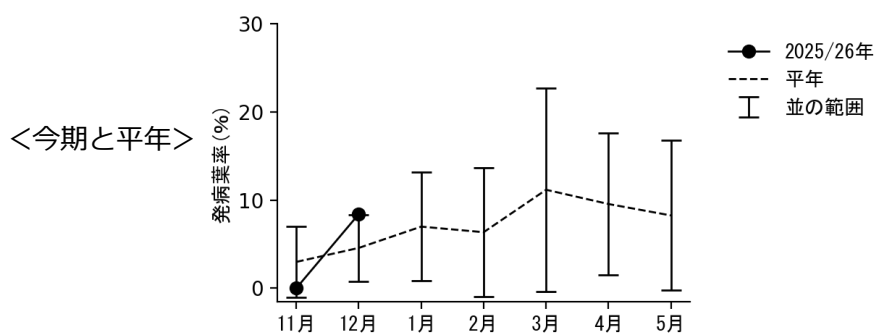


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0%（平年：49.1%）※一部施設で多発

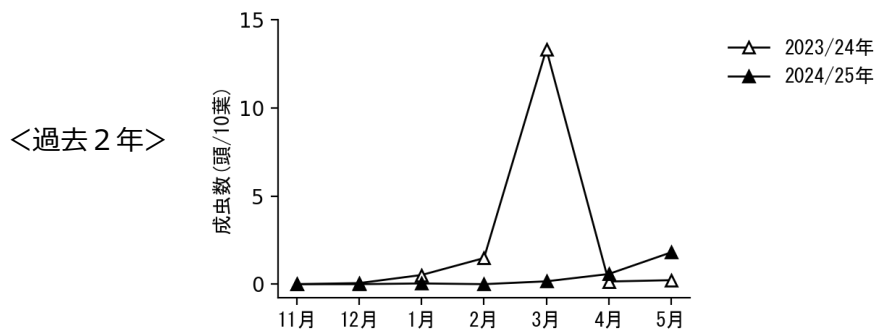
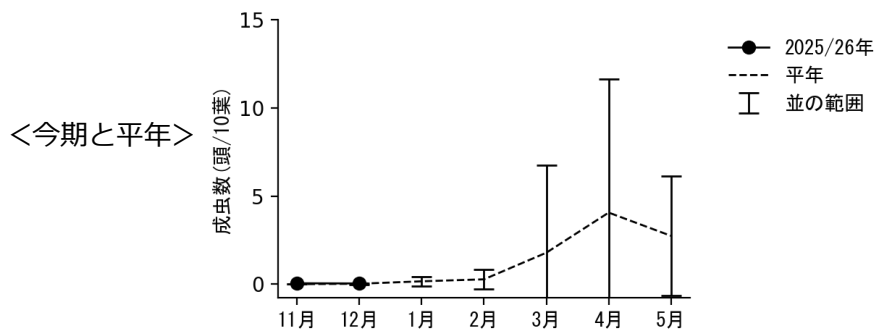
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0%（平年：10.9%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

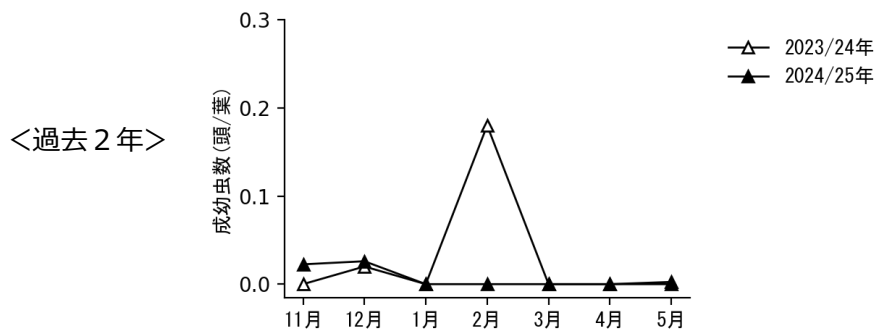
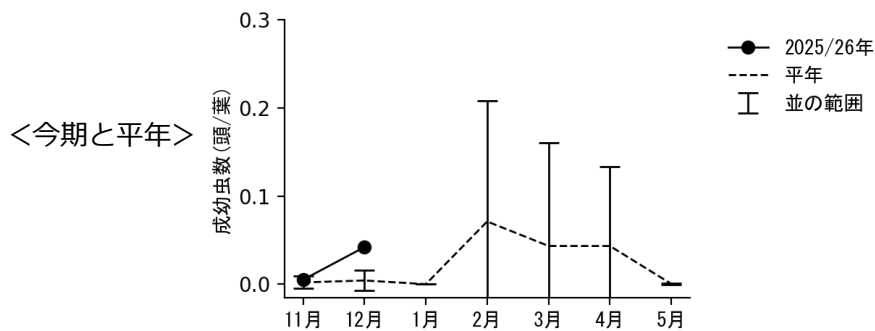


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	↘		
	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率20.0%（平年：3.6%）※一部施設で多発

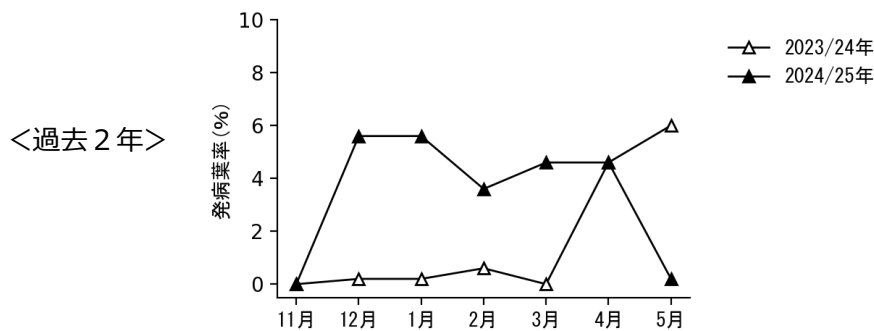
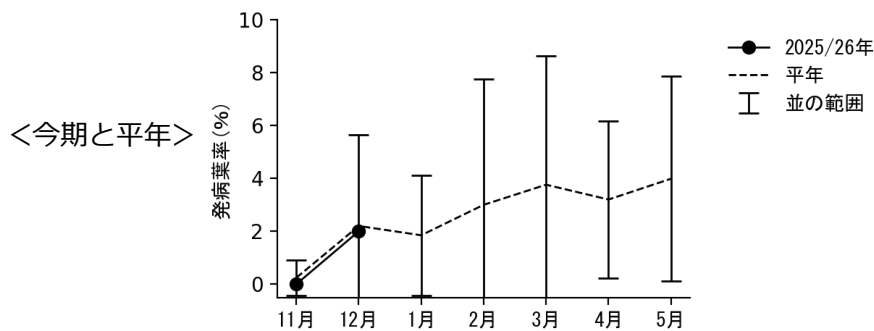
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予 報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0%（平年：30.0%）

防除のポイント

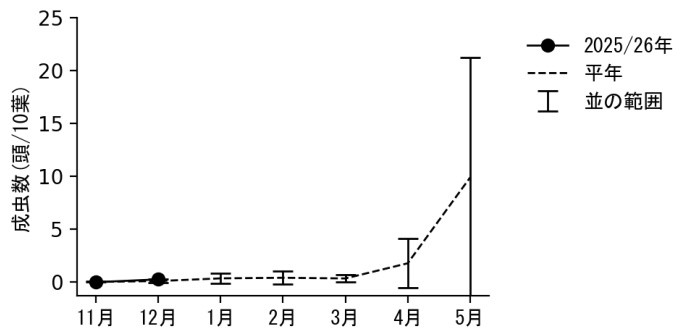
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

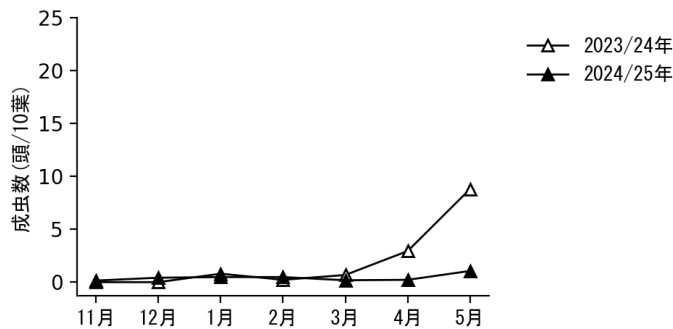
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率60.0%（平年：10.0%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



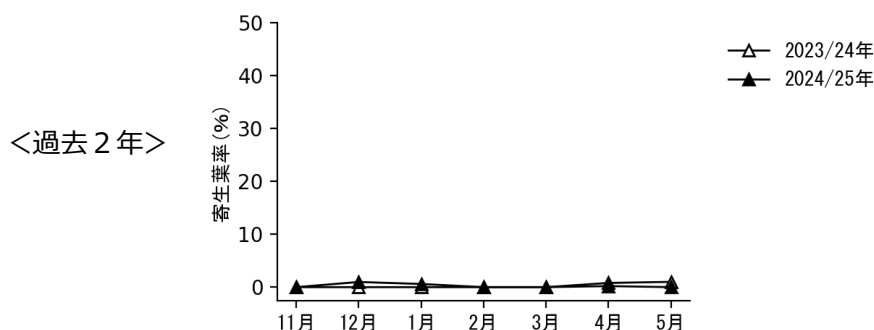
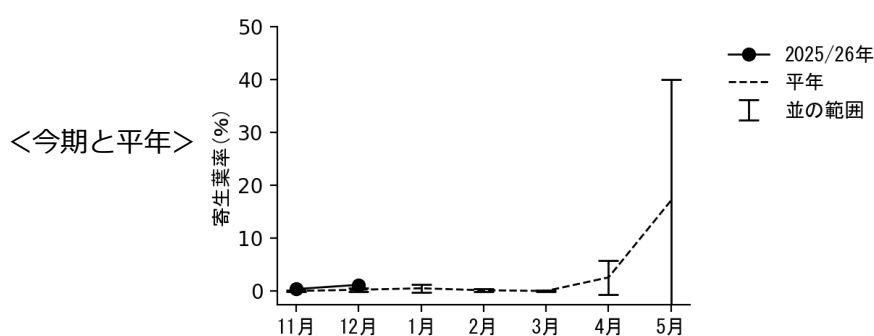
幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	



調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：トマトハモグリバエ
- ・発生施設率40.0%（平年：16.7%）

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。



幼虫の死骸
（農薬などで死亡すると黒色に変色）